事業進捗管理の強化による事業効果の早期発現

進捗管理を徹底することで事業のスピードアップを実現。

(1)取組みの背景と必要性

■ **事業の長期化**

現在実施中の道路事業は、関係者調整や現地調査前の不確定要素の影響等により、当初設定された事業期間より長期化する傾向である。これにより、道路利用者及び沿線住民の皆様から「いつになったら完成するのか」等の不満の声が寄せられている。

■ **事業進捗管理の強化**

直轄事業のうち、地元の協力体制や用地の確保状況など、円滑な事業進捗の環境が整い、5 年以内に供用を目指す事業について、供用目標及び毎年度の進捗目標とその達成度を公表し、進捗管理を徹底する事により、事業のスピードアップによる事業効果の早期発現とコスト縮減の実現を目指している。

(2)昨年度の取組みと成果

■ **ちゃく²プロジェクト**

九州地方整備局では、平成 16 年度に公表した「ちゃく²プロジェクト 2004」で設定された 165 区間の達成状況を取りまとめた。

① 進捗目標は、全体の 78%の区間・箇所で達成
② 平成 16 年度内の供用目標（56 区間・箇所）については、改築事業 102%、歩道整備・交差点改良 103%、道の駅 100%、電線類地中化事業 25%、全体で 100%を達成
③ 事業進捗等の遅れにより、供用目標変更になった区間・箇所は 4%

■ **5 年で見える道づくり**

東北地方整備局では、目標宣言プロジェクトの先進的な取り組みとして、「5 年で見えるみちづくり」～東北のみちサービス・レベルアッププラン～を実施している。平成 16 年度は、供用目標全 26 区間のうち、25 区間（96%）が目標を達成した。

■ **道路見える化計画**

関東地方整備局では、平成 17 年度から道路の課題をデータで把握し、その最適な解決法を見いだし、解決を急ぐべきところから対策を講じていく「道路見える化計画」を開始した。道路見える化計画は、「渋滞見える化プラン」、「交通安全見える化プラン」、「目標宣言プロジェクト」などから構成され、検討内容を公表し多様な意見を伺いながら、進め方を「見える化」するものである。

(3)業績計画（今後の取組みと期待される成果）

■ **直轄事業を対象に事業進捗管理を徹底**

供用目標、毎年度の進捗目標と達成度を公表し、進捗管理を徹底することで、事業のスピードアップを図る。

■ **事業進捗管理のフォローアップ**

「ちゃく²プロジェクト 2005」「5 年で見えるみちづくり」「道路見える化計画」で実施中の取組みの評価としてフォローアップを実施し、公表する。

担当 ： 道路局 国道･防災課

（1）取組みの背景と必要性

現在実施中の道路事業は、関係者調整や現地調査前の不確定要素の影響等により、当初設定された事業期間より長期化する傾向である。これにより、道路利用者及び沿線住民の皆様から「いつになったら完成するのか」等の不満の声が寄せられている。

そこで、事業効果の早期発現を図るため、地元の協力体制が整い、事業進捗の見通しがたった事業（目標宣言プロジェクト）について、供用目標及び毎年度の進捗目標とその達成度を公表し、進捗管理を徹底する必要が生じた。

加えて、事業を迅速に進めるために、用地買収や埋蔵文化財調査の促進のため、自治体の協力の強化や民間委託、土地収用手続きの積極的な活用を図ることとした。

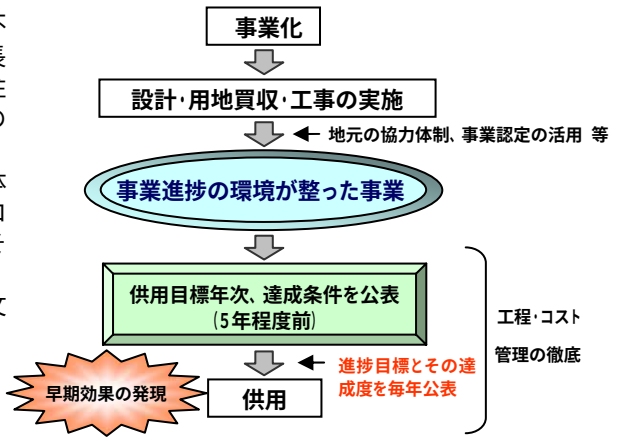

図 16-1　5 年以内目標宣言プロジェクト

（2）昨年度の取組みと成果

■ ちゃく²プロジェクト

（成果指向の事業マネジメントの構造）

・成果志向は、単純にアウトカムを目標とすれば実現できるわけではない
・アウトカムだけでは、年々の予算と努力による成果が実感しづらく、現実のマネジメントを有効に行うことは困難
・短期間でのアウトプット目標を設定し、これによって達成状況を評価する方法が有効

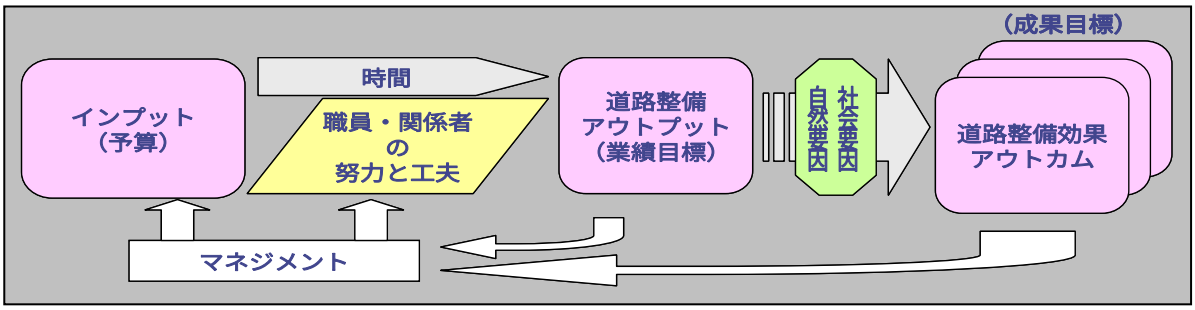

図 16-2　社会資本整備マネジメントの構造

（九州の 5 年で見える道づくり「ちゃく²プロジェクト」の枠組み）

事業の効率化：規格･構造の見直し、スピードアップの工夫
対象事業選定：①投資効果が高い
②進捗の環境が整っている、
③選択と集中で 5 年以内に供用可能

対象事業毎に：①供用目標、
②年度毎の進捗目標を設定･公表、
③予算･体制の確保、
④収用制度の適切な活用

「有言実行の道づくり」

ポイント 1
一般への情報提供充実
◆現場での明確な情報発信
◆説明責任の向上

ポイント 2
プロジェクト管理の強化
◆関係者の意識統一
◆コスト管理とスケジュール管理

「ちゃく²プロジェクト」により改善策を講じた事例

国道 3 号　黒崎バイパスの例

ちゃく² プロプロジェクト目標
舟町ランプ～陣原ランプ L=2.9km(2/4)
●効率的な整備計画の立案
･北九州市と連携し、街路と連携した整備計画を策定
→最小限の投資で連続的なネットワークの確保が可能
約 160 億円の初期投資額削減
(約 5 年間*の早期供用が図れる)
※黒崎 BP の年間投資額を 30 億円/年(H16 実計程度)と仮定

○初期投資額の比較

ケース	事業費（億円）
街路活用	450
街路活用無し（BP全線整備）	510
削減額	160

●自治体の協力体制の確保
本線工事のための埋設物移設計画策定、
占用企業者との調整を北九州市が中心になって実施

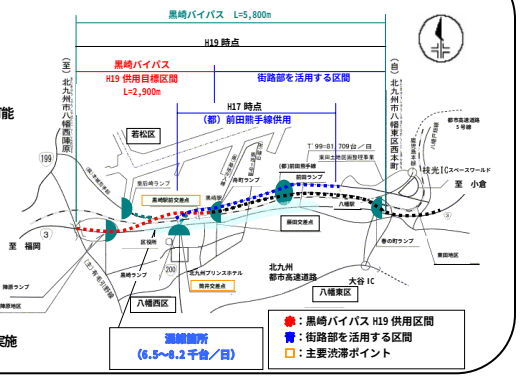

図 16-3　「ちゃく²プロジェクト」の枠組み

【VI. 道路行政の進め方を改善する】

「ちゃく²プロジェクト」では、それぞれの事業箇所を供用可能区間単位（例えば 2～4km）に分解し、より少ない費用で早期に効果を発揮するように計画調整された状態で「選択と集中」により 5 年以内の供用を目指す区間を検討している。(図 16-3)

■ ちゃく²プロジェクト 2004 の成果

例えば、一般国道 208 号有明海沿岸道路では、平成 19 年度のちゃく²プロジェクト供用目標公表により、自治体等の意識が向上し、地域の早期合意形成が図られ、用地取得が公表前に比べ、大幅に推進した。(図 16-4)

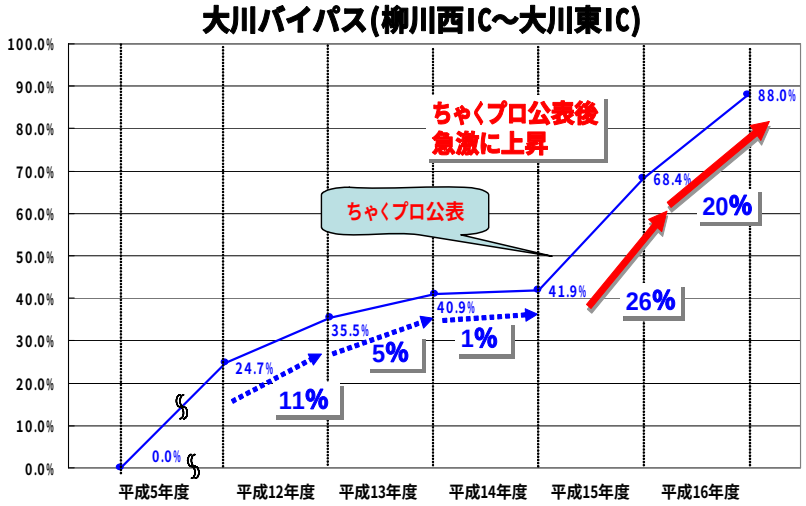

図 16-4　用地取得の推移【有明海沿岸道路（大川バイパス）】

◎「ちゃく²プロジェクト 2004」(H16.7.16 発表）では、九州の道路事業のうち 165 の区間・箇所について、平成 20 年度までの供用目標と平成 16 年度の進捗目標を策定した。平成 16 年度の進捗目標については、全体の 78%の区間・箇所で達成。そのうち平成 16 年度内の供用目標（56 区間・箇所）については、改築事業（バイパス、拡幅など）102%、歩道整備・交差点改良 103%、道の駅 100%、電線類地中化事業 25%、全体では 100%を達成している。事業進捗の遅れ等により、供用目標の変更が必要となった区間・箇所は 4%発生した。

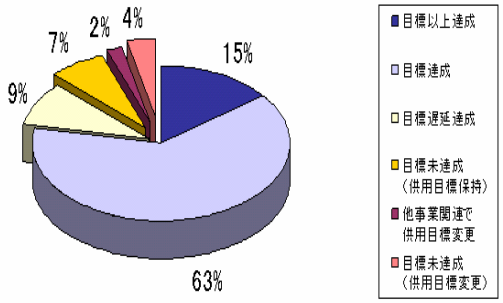

図 16-5　進捗目標の達成状況（165 区間・箇所）

表 16-1　事業別の進捗目標の達成状況

	H16 年度内 供用目標①	H16 年度内 供用実績②	達成率 ②／①	H17.6 月末 供用実績③	達成率 ③／①	H16～20 供用目標
改築事業 （バイパス・拡幅事業等）	35.9km (19 区間)	36.6km (21 区間)	101.9% (110.5%)	36.90km (22 区間)	102.7% (115.8%)	174.4km (75 区間)
歩道整備・交差点改良 （交通安全事業）	30 箇所 (12.6km)	31 箇所 (12.7km)	103.3% (100.8%)	32 箇所 (12.9km)	106.7% (104.8%)	57 箇所 (20.6km)
「道の駅」整備	3 箇所	3 箇所	100%	3 箇所	100%	6 箇所
電線類地中化事業 共同溝	－ (－)	－ (－)	－% (－%)	－ (－)	－% (－%)	2 箇所(16.2km)
電線共同溝	4 箇所(5.3km)	1 箇所 (0.8km)	25.0% (15.0%)	1 箇所（0.8km)	25.0% (15.0%)	25 箇所(45.1km)
区間・箇所計	56 区間・箇所	56 区間・箇所	100.0%	58 区間・箇所	103.5%	165 区間・箇所

■ 5年で見える道づくり

成果・供用目標の公表により透明性の向上を図り、地域住民、道路利用者の望む成果に直結する施策・事業を峻別し、無駄なくスピーディーに「つくる」、既存ストックを有効に「つかう」施策を推進する。

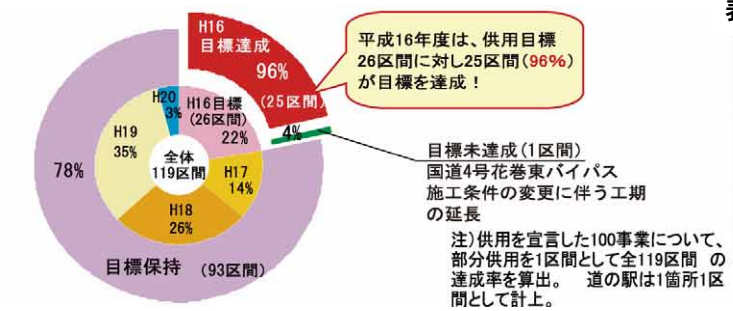

図 16-6　H16～H20　供用目標の達成状況（全 119 区間）

表 16-2　平成 16 年度の供用目標に対する達成状況

		H16 供用目標 ①	H16 実績 ②	達成率 ②／①
ネットワークの整備など	延長	52.9km	52.1km	98.5%
	区間数	17区間	16区間	94.1%
交通安全の確保など	区間数	9区間	9区間	100%
全　体	区間数	26区間	25区間	96.2%

■ 道路見える化計画

（概　要）

道路見える化計画は、移動性の阻害要因を分析し、対策が必要な箇所を選定して対策を進める「渋滞見える化プラン」、交通死傷事故のデータを分析し、対策が必要な箇所を選定して対策を進める「交通安全見える化プラン」、徹底した事業進捗管理を実施する「目標宣言プロジェクト」などから構成される。（図 16-7）

（方　針）

「国や地方の財政が逼迫する中で、これからの行政は限られた予算で効率よくサービスを提供していかなければなりません。そこで私たちは道路の課題をデータできちんと把握し、その最適な解決法を見いだし、解決を急ぐべきところから対策を講じていきます。また、今まで見えにくかった道路行政を、もっとわかりやすく「見える化」することも、もう一つの目的です。工事の実施の際にも、何のための工事か「見える化」していきます。課題のデータや、それに基づいた解決策とその結果を利用者、納税者の皆さんに「見える化」し、効率的に道路行政を進めてまいります。」

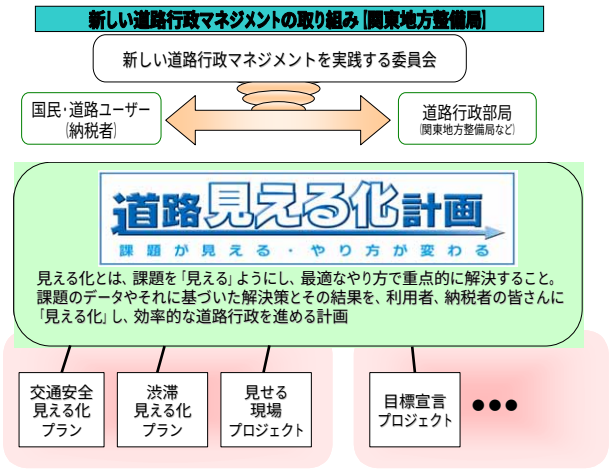

図 16-7　道路見える化計画の取り組み

（目標宣言プロジェクト～首都圏中央連絡自動車道）

圏央道は、早期開通を求める多くの声を頂いているため、「目標宣言プロジェクト」に位置づけ徹底した事業管理を実施しながら工事を進めている。

この目標宣言により、圏央道全体を今後約 10 年で完成させる。（図 16-8）

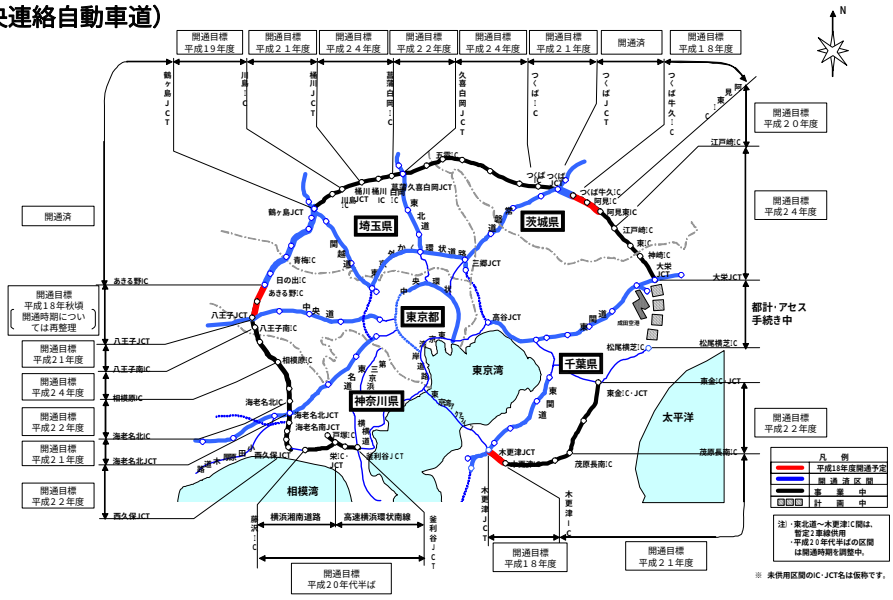

図 16-8　目標宣言プロジェクト（首都圏中央連絡自動車道）